

テトス2章11-15節 「恵みによる良いわざ」

1A 恵みの現れ 11

1B 愛に満ちた主権者

2B すべての人への救い

1C 罪人のかしらパウロ

2C 愚かで不従順なクレテ人

3C 聖霊による再生と刷新

2A 恵みの教え 12-14

1B 慎み深い生活 12

2B 栄光ある現れの待望 13

3B 良いわざに熱心な民 14

3A 権威のことば 15

本文

みなさん、おはようございます。私たちは無事に、祝福された中で、奥多摩でのリトリートを終えました。みなさんのお祈りを感謝します。今朝は、そのリトリートで見て行った、テトスへの手紙から分かち合っていきたいと思います。「¹¹ 実に、すべての人に救いをもたらす神の恵みが現れたのです。¹² その恵みは、私たちが不敬虔とこの世の欲を捨て、今の世にあつて、慎み深く、正しく、敬虔に生活し、¹³ 祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるイエス・キリストの、栄光ある現れを待ち望むように教えています。¹⁴ キリストは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心な選びの民をご自分のものとしてきよめるため、私たちのためにご自分を献げられたのです。¹⁵ あなたは、これらのことを十分な権威をもって語り、勧め、戒めなさい。だれにも軽んじられてはいけません。」

神の恵みが現れたと、パウロが言っています。私たちカルバリーチャペルは、今、23 あります。私がアメリカから戻ってきた時、1997 年には 2 つぐらいしかなかったのではないかと思います。それが、25 年ぐらいを経て、そこまで大きく広がっているのです。

そして、リトリートで、リーダーたちが集まっている時に、いつも思うのです。そこにあるのは、互いに互いを喜ぶ平和です。互いのために祈る、愛です。何か、カルバリーチャペルの教会の数を 10 年計画で、これだけ増やします！という努力は、一切ありませんでした。いつの間にか、その御霊による喜びと平安、愛の交わりが、主の召しに忠実なしもべたちの間で生まれてきました。そこには神の恵みが介在しているとしか、表現することはできません。

1A 恵みの現れ 11

1B 愛に満ちた主権者

恵みとは何か？私が若い時に、小さな冊子を読んで、その信仰に沁みつきました。それは、「カルバリーチャペルの特徴」という本が出る前、「カルバリーチャペルの奉仕の哲学(The Philosophy of Ministry of Calvary Chapel)¹」という冊子に書かれている言葉でした。チャックは、聖書を順番に教え始めて気づいたことがありました。それは、自分が神のために何かを行うことよりも、神が私たちのために行われたことが初めにあり、それから私たちが応答するのだということです。神が、すべてのことの始まりです。英語では、Initiator と書いてあります。すべて神が主権を持っておられて、ご自分の一方的な慈しみ、憐れみで、すべてのことを運んでくださいます。

それゆえ、すべて神に栄光が帰ります。「ロマ 11:36 すべてのものが神から発し、神によって成り、神に至るのです。この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。」自分が努力して、それで何か成果が得られて、でも、自分に栄光を帰してはいけないと戒めて、それで主に栄光を帰す、とうことではないのです。確かに、主が行われたことしかないと悟るのです。自分はただ、主に言われたことしかしていない、しもべです。そして、しもべですから、責任を取られるのは主ご自身です。主が、事を行ってください、自分はただ従順になるだけです。そうして、主ご自身の良いわざが、現れます。ですから、自然に主に栄光を帰するのです。主を、あがめることしかできません。

2B すべての人への救い

11 節に、「**実に、すべての人に救いをもたらす神の恵みが現れたのです。**」とあります。これは、どんなに、神から遠く離れた者であっても、それでも救いをもたらしたのだという意味合いが込められています。

1C 罪人のかしらパウロ

パウロ自身が、自分自身を神が救われたことを思って、語っていることは間違いありません。彼は自分のことを、コリント第一 15 章で、「月足らずで生まれた者のような私にも(キリストは)現れてくださいました。」と言いました(8 節)。なぜなら、神の教会を迫害したからです。そして、テモテに対しては、こう話しています。「I テモ 1:13-15 私は以前には、神を冒す者、迫害する者、暴力をふるう者でした。しかし、信じていないときに知らないでしたことだったので、あわれみを受けました。私たちの主の恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛とともに満ちあふれました。「キリスト・イエスは罪人を救うために世に來られた」ということばは真実であり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。しかし、私はあわれみを受けました。それは、キリスト・イエスがこの上ない寛容をまず私に示し、私を、ご自分を信じて永遠のいのちを得ることになる人々の先例にするためでした。」

¹ <https://archive.org/details/1992BookThePhilosophyOfMinistryOfCalvaryChapelScanned>

私たちがキリストの恵みを思う時、この、すべての人を救う神の恵みを思う時、主の御名によって集まった私たちが、互いに互いをお祝いするという思いがとても大切です。それぞれが、違う背景を持っています。これまで生まれ育ってきた環境とは異なる人々が集まっています。しかし、神がこの罪人を救ってくださったという、その恵みを喜ぶことで、私たちは一つになっています。

2C 愚かで不従順なクレテ人

そして、このテトスへの手紙では、クレタ人が、すべての人への神の救いに含まれる恵みについて語っています。クレタ島で、教会の長老たちを任命する務めを、テトスがパウロから命じられています。それは、教会に秩序と平安を保たせるため、「1:10 実は、反抗的な者、無益な話をする者、人を惑わす者が多くいます。」とあるからです。そのような者たちは、「1:11 恥ずべき利益を得るために、教えるはならないことを教え、いくつかの家庭をことごとく破壊しています。」とあります。

そのために、まずは長老たちを立てます。その長老たちは、非難されるところのない者で、わがままや、短気、酒飲み、乱暴ではなく、よく人をもてなし、善を愛し、慎み深く、正しく、自制心があるような人です。そして、「1:9 教えにかなった信頼すべきことばを、しっかりと守っていなければなりません。」と言っています。

なぜ、そこまでののか？クレタ人の気質が、背景にあります。1章12節には、「クレタ人のうちの一人、彼ら自身の預言者が言いました。「クレタ人はいつも嘘つき、悪い獣、怠け者の大食漢。」」とあります。クレタ島と言えば、ギリシアに浮かぶ島です。私たちににとっては、とても美しい、地中海に浮かぶ観光の島ということになりますが、その表面的な美しさとは裏腹に、今のような気質がありました。嘘をつきます。獣のように、動物的な感覚で生きています。そして怠け者で、働かず、人々におせっかいばかり焼いています。一見、まともそうに生きていても、一皮むけば、いろいろな、やみのわがが見えてきます

3C 聖霊による再生と刷新

そういった彼らに、神の恵みが現れました。3章で、パウロはこのことを語っています。長いですが、読んでみましょう。「³ 私たちも以前は、愚かで、不従順で、迷っていた者であり、いろいろな欲望と快樂の奴隷になり、悪意とねたみのうちに生活し、人から憎まれ、互いに憎み合う者でした。⁴ しかし、私たちの救い主である神のいつくしみと人に対する愛が現れたとき、⁵ 神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。⁶ 神はこの聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。⁷ それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みを抱く相続人となるためでした。」

人間的には、到底、直しようがない、救いようのない人たちであっても、その人たちの努力では

なく、神の一方的な慈しみで変えられています。神が、彼らに聖霊をくださいました。聖霊によって、再生します。刷新します。そして現れて、きよく、正しく、敬虔に生きるようにしてくださったのです。そして、恵みによって義と認められたので、将来の永遠のいのちの望み、御国の相続が与えられているのです。

2A 恵みの教え 12-14

そこで 12 節では、この恵みが今の生きている世において、私たちに与える影響について話しています。

1B 慎み深い生活 12

12 その恵みは、私たちが不敬虔とこの世の欲を捨て、今の世にあつて、慎み深く、正しく、敬虔に生活し、

神の恵みは、人々に不敬虔とこの世の欲を捨てる力を与えます。一方的に神に愛され、恵みが与えられたら、もっと罪を犯す機会を作ってしまうではないか？という人たちがいます。その人は、まだ恵みを受け入れていないからです。恵みを受け入れる人は、自分がどれほど罪深く、救いよのない存在であるかを自覚しています。そして、今のあり方に嫌気が差しており、悔い改めたいという思いがあります。神のすばらしい恵みに触れて、イエス様に従いたい、この方についていきたいと思います。

恵みを受け入れていない人は、同じ恩恵を受けても、それに感謝せず、自分のあり方を捨てようとは思いません。十人のツアラアトの人たち、らい病人のことを思い出してください。彼らが、「イエス様、先生、私たちをあわれんでください。」と、遠くから大声で叫びました。主は、「行って、自分のからだを祭司に見せなさい。」と言われました。それで行く途中で、きよめられたのです。そのうちの一人が、自分が癒されたことが分かると、大声で神をほめたたえながら引き返してきて、「イエスの足もとにひれ伏して感謝した。(ルカ 17:16)」とあります。

言い方を変えれば、神の恵みがあるからこそ、私たちは罪を捨てることができます。罪との戦いは激しいです。自分のこれまで行ってきた悪い習慣や思いは、今も私たちの魂に挑みかかってきます。しかし、神の恵みによって強められ、罪ではなく、神の義に従うことができます。「ロマ 6:12-14 ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪に支配させて、からだの欲望に従ってはいけません。また、あなたがたの手足を不義の道具として罪に献げてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者としてあなたがた自身を神に献げ、また、あなたがたの手足を義の道具として神に献げなさい。罪があなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にあるのです。」

私たちは、神の憐れみによって、聖霊が与えられました。それで初めて、心も思いも洗われています。そして、神の愛によって、罪による罰から解放されました。神に愛されているから、神を愛して、その命令を守りたいと願うのです。「詩篇 130:3-4 主よ あなたがもし 不義に目を留められるなら 主よ だれが御前に立てるでしょう。しかし あなたが赦してくださるゆえに あなたは人に恐れられます。」

そして、捨てるだけではなく、身につけます。「**慎み深く、正しく、敬虔に生活**」するということです。テトスへの手紙は、教えが、私たちの生活にそのまま直結していることを教えています。今、私たちは黙示録を見て行っていますが、主が来られるという幻を見ている中で、それが日々の生活に直結していることを忘れてはいけません。

慎み深い、正しい、敬虔ということについて、テトス2章の前半で、パウロは語っています。また3章前半でも語っています。2章前半では、一人一人が、その年相応に、また性別相応に変えられていく姿を見ることができません。年配の男の人は、自分を制して、品位を保つように変えられます。年配の女の人は、中傷するのではなく、良いことを教え、若い女の人たちに、夫を愛し、子どもを愛するように教えます。若い人たちは、思慮深くなります。また、奴隷たちは主人に従うようにと勧められています。そして3章には、支配者たちと権威者たちには服して、従い、良いわざを進んでする者となるようにしなさいと教えられているのです。このように、それぞれの生活の中で、変化が恵みによって与えられるのです。

2B 栄光ある現れの待望 13

このように、慎み深く、正しく、敬虔に生きるということの延長に、栄光の望みがあるのです。「¹³祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるイエス・キリストの、**栄光ある現れを待ち望むように教えています。**」主が戻ってこられたら、神の恵みによって栄光の姿に変えられるのだから、今の生活はどうでもいいのだという考えは、とんでもなく誤っています。主ご自身の教えにおいても、どこにおいても、今、忠実に歩んでいる人こそが、主のお会いする時に栄光に満たされるという道を示しています。今、世の楽しみや罪にふけていたら、主が来られるのは、祝福に満ちた望みではなく、盗人のように驚くこと、恥じること、失われることなのです。

私たちが主を愛していて、主に従っていて、それで主を待ち望むのは、この方に会いたいという強い願いがあるからです。それだけでなく、今の世においては、自分は完成されていないことをよく知っているからです。自分は主のように生きていきたいと願っていますが、そうなっていない自分がいます。このからだを贖われなければ、この方のようになれないことを知っています。そのはざまの中で、私たちはうめいています。だからこそ、義は主から与えられると願うのです。「ピリ 3:9-11 キリストにある者と認められるようになるためです。私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持つのです。私は、キリ

ストとその復活の力を知り、キリストの苦難にもあずかって、キリストの死と同じ状態になり、何とかして死者の中からの復活に達したいのです。」

3B 良いわざに熱心な民 14

そして、これが神の贖いのご計画の中にあります。「¹⁴ キリストは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心な選びの民をご自分のものとしてきよめるため、私たちのためにご自分を献げられたのです。」出エジプト記を思い出してください。エジプトで奴隷として苦しみを受けていました。そこから、主は力強い腕で、彼らを贖い出しました。そして、シナイ山のところで、ご自分の選びの民として宣言されました。そのために、過越の祭りで子羊を屠るように命じられました。これと同じことを、主は私たちに行われました。不法に満ちた世から贖い出したのです。そして、選びの民にしました。そのために、ご自分が過越の子羊となりました。いのちと血を献げられました。

ここまでは、私たちは、聖書の他のところでも数多く読む内容です。テトスへの手紙では、その選びの民は、「良いわざに熱心」だということです。そして、ご自分のものとして、私たちを清めたということです。主の民になるために聖別されて、良いわざに熱心になるということです。私たちは、キリスト者ではない方々から見られて、果たして私たちがキリスト者だということが、どのようにして分かってもらえるでしょうか？もちろん、信仰告白があります。自分はキリスト者だということです。そして、もっと積極的には、イエス・キリストの福音を伝えていたら、明らかにキリスト者だと分かるでしょう。しかし、ここでは、口で語るだけでなく、良い行いに熱心なところで、選ばれていることが分かるのだということです。

私たちは、キリストの名を呼んでいるけれども、周りの文化で埋もれていることはないでしょうか？それとも、キリストに従っている中で、周りの文化とは違って、光り輝いている部分はどこにあるでしょうか？私たちの周囲の文化が、クレタ人のようではなくても、神からのものではない、闇だと思われるものは何でしょうか？

かつて、東日本大震災の後、救援旅行や復興支援旅行に、私たちカルバリーチャペルが数多く出かけた時、その地域の人々は、私たちや他の教会や団体の人々を、キリスト者だとはっきりと認識していました。私たちが助けた人は、「イエスのグループ」と呼んでいました。「キリストさん」と呼ばれた、という話も聞いています。神という言葉を使わないのです。なぜか、分かりますか？津波の被災に、隣の神社は助けてくれませんでした。隣の、被災していない仏教の寺は助けてくれませんでした。助けたのは、教会の人々でした。だから、「神」という言葉は、神社の神様になってしまうので、イエスのグループとか、キリストさんとか呼んでいます。

そして、日本に来たことのある牧師さんご夫婦と、9月のタイでの宣教大会でお話しました。彼らはアメリカ人です。日本は、外国人にとって大人気の国です。みんな、日本bのことをほめます。

けれども、少し付き合っていくと、とてつもない闇があると、そのお二人に、在日外国人が話したそうです。ドイツ人でしたでしょうか？数年暮らしても、心の通う友達が造れない、と話していたそうです。ものすごい、暗いと言っています。牧師さん夫婦は、ほとんど「教会に来てくださいよ」と、口まで出なかったそうです。

なぜか？日本は、表面的には素晴らしい国です。けれども、心を明かさない。孤独や引きこもり、また鬱や自殺など、表面ではなかなか見えない社会問題がわんさかあります。人とは関わらず、自分が損すること、傷つくことから離れます。LINE では年末になると、アカウントを完全にリセットする人が多いと聞きました。一年経ったら、おしまいの付き合いです。これは、外国から見たら異様なだけでなく、福音の光に照らしても、闇そのものです。しかし、牧師夫婦のお二人は、日本の教会を見ました。カルバリーチャペルです。そこには贖われた人々がいました。顔が喜んでいます。希望があります。心を明かし、分かち合っています。

私たちは、このように、滅びゆく世において、神に贖われ、光となった民なのです。良い行いに熱心なのです。本来あるべき、神に造られたかたちとして、回復されている者たちなのです。私たちは、ただ、教えだけ聞いて、それを心に入れないで、生活に入れないで、周りの文化に埋没しているでしょうか？自分の都合や利益だけ考えて、愛する兄弟、また姉妹のことは横に置いていたら、キリストは名乗っていても、世に埋没しています。しかし、光の中に入れられた私たちだからこそ、教会の集まりが、どれほど尊いものか、その交わりや助け合いが、どれほど光輝くものかを知っています。

3A 権威のことば 15

15 あなたは、これらのことを十分な権威をもって語り、勧め、戒めなさい。だれにも軽んじられてはいけません。

これらが、恵みの教えであり、健全な教えであります。そのまま、自分の生活に密着した教えです。頭ではなく、心で受け止めることばです。クレタの人々は、権威ある人を侮り、妬み、中傷する気質がありましたが、決して、このことは軽んじられてはいけない。十分な権威をもって語り、勧め、戒めなさいと教えています。

イエス様は、権威をもって語られました。そして、使徒たちも、主からのことばを、権威を持って語りました。そして、それを人のことばではなく、事実、神のことばだと信じて、受け止めている人々には、神のことばが、その人たちのうちで働くのです。「1テサ 2:13 こういうわけで、私たちもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたが、私たちから聞いた神のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実そのとおり神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いています。」

終わりの日において、私たちは、ますます良い行いに熱心な人々となっていきましょう。私たちが集まるのは、励ますためです。そして、愛と善行を促すためです。「ヘブル 10:23-25 約束してくださいの方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。また、愛と善行を促すために、互いに注意を払おうではありませんか。ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。」